



# 苗半作 畑苗代に思う

秋の収穫を目指し、様々な栽培方法を考えてみよう

田植の最盛期を迎えていますが、今年の苗の生育はどうだったでしょうか。風の強い日は多少ありましたが、育苗期間中は比較的好天に恵まれてしつかりした苗ができたのではないのでしょうか。何しろ昔から「苗半作」といわれていますから。

我が家では自家用の苗は自分で播種してプールで管理していますが、その他に農協から3千箱の苗を委託し、管理を始めて20年余りになります。今年も4月24日に出芽苗が運び込まれ、5月10日に搬出されます。16日間で2・5葉、12〜13cmの規格に仕上げなければなりません。受託をはじめて以来、一回も失敗がなかったのが自慢ではありますが、天候しだい温度管理を変え、散水量を調節するのは結構神経を使います。

以前は育苗時期も今より多少早かったのですが、始めは保温に気を使ったのですが

最近ではまったく逆に早くから開放して、苗が徒長してしまうのを防ぐことに気を使っています。

特に、自家用の苗の一部をビニールハウス内で無加温発芽させ、プール育苗しています。第1鞘長を早く抑えるには、早くから夜間も開放してもビニールハウスによる保温効果が障害になつていきます。ただし、発芽までの日数はハウス内の方が短縮されるのは当然です。

「柏崎夢の森公園」には水田と畑があり、公園周辺地域の皆さんが「有機農」、公園の講座として「自然農」の二通りのやり方で米と野菜を作っています。自然農は月に1〜2回の講座が年間を通して受講生30名で開かれます。今年も希望者が多くて抽選でした。頼まれて自然農の米作りの部分だけの講師をボランティアでやっています。面白い体験をしました。

畑苗代での育苗ですが、昨年の稲株と雑草を土の表面と一緒にノコギリ鎌で削り取り、10cm間隔で巾と深さが1cm位の溝を作り、芽だしをした種物を蒔いて薫炭をかぶせました。昨年は公園のスタッフの指導で



したが発芽率が極めて悪く、苗が足りなくなつてしまいました。私が自身も畑苗代は初めての経験です。でも、まったく自信がありませんでした。特に保温材に何をしようかと迷っていました。常時管理できないのですから、高温障害を防ぐことと除去のタイミングをあまり気にしなくてもよいのではないかと、このことから、不織布を使うことにしました。

ところが、天候に恵まれたこともあったのでしようが、私の屋外のプール育苗よりも5日も早く、申し分のない発芽率で一斉に発芽してくれました。私の場合は始めに指導を受けたとおり、アルミ蒸着シートと緑化シートを二重にかけていきました。日中の温度が上がらなかつたので、発芽が遅れてしまつたのだと思われず。ハウス内では有効なやり方が屋外では通用しなかつたということ。講座終了



後のミーティングで受講生が「色んな作業一つ一つにちゃんと理由があることがわかりました。」と発言していました。田植は5月31日に予定されていますが、やり方は不耕起のままの田面に草刈鎌で穴を開けながら苗を差込み、その後に入水して水田にします。米作りは八十八手間と言われるほど多くの作業があります。その作業一つ一つは目的ではなく、あくまでも手段に過ぎません。育苗様式にしても水苗代からさまざまな変遷を経て現在の主流はハウス育苗でしょうが、プール育苗も普及しつつあります。それぞれに長短があります。自分自身の労働力配分、必要とする苗質や葉齢、田植時期等によって選択すれば良いのですが、それぞれの育苗様式



によって技術対応が同じものもありませんが、まったく別のやり方をしなければならぬものもあります。時にはそれまで蓄積していた経験や技術が妨げになつてしまふことすらあるということ。育苗以外の全ての作業についても従来のやり方を単に繰り返すだけでなく、作業の目的や理由、経費などについて洗いなおしてみても必要ではないでしょうか。それまで思いもしなかつたことに気づくこともありますし、先人の長い経験を経て獲得された豊かな知恵に気付かされることもあつて少くないでしょう。

(内山常蔵記)

# 経済産業省関東経済局長らが視察

エコ・ライス新潟に、関東経済産業局の塚本修局長、稲村和子産業振興課長らが来社されました。

目的は「はんぶん米」の表示に関するこれまでの経緯や問題点を予定時間を、大幅に延長してヒアリングされました。

健康増進法、薬事法、JAS法等様々な法令により消費者保護を目的に、表示は規制を受けています。しかし、規制が厳しすぎて何も表示ができない状態で、かえって必要な情報が表示できなく、消費者が不利益を受けている現実もあります。

省庁を超えて規制の現状を調査されました。



# 白藤の田植を行いました

ゴールデンウィーク最終日、東京家政大学の中村信也教授と学生10名が白藤の田植をしました。今年も、赤米の神丹穂(カンニホ)、紫稲も白藤の田んぼに植えました。

お盆過ぎには「白」「ピンク」「紫」の綺麗なグラデーションを見せてくれると期待しています。



朝日新聞(平成21年5月1日)

## 耕作放棄地の8割が再生困難

# 「最悪」解消手づまり

政府実地調査

農地をめぐっては、耕作放棄地が拡大し、再生が手詰まりで深刻化している。政府の実地調査によると、再生が困難な耕作放棄地は全体の8割に達している。解消に向けた取り組みは、手詰まり状態にある。国土交通省は、再生が困難な耕作放棄地の解消に向けた取り組みを進めている。再生が困難な耕作放棄地の解消に向けた取り組みを進めている。

## 山間部荒れて森林化

耕作放棄地の増加を助けた。群馬北東部の村上市。山間部まで耕作に手が届かなくなると、耕作放棄地が増え、山間部は荒れて森林化が進んでいる。山間部は荒れて森林化が進んでいる。山間部は荒れて森林化が進んでいる。



耕作放棄地が多いとされる。群馬、日本森に面した山の上にある一軒上りの山村地区

## 悪条件 ほとんたらかし

耕作放棄地の再生が困難な理由として、悪条件がほとんど挙げられている。悪条件がほとんど挙げられている。悪条件がほとんど挙げられている。

## 耕す人なく改善困難

耕作放棄地の再生が困難な理由として、耕す人がいないことが挙げられている。耕す人がいないことが挙げられている。耕す人がいないことが挙げられている。

再生困難な農地の比率が拡大している

都道府県	再生困難な農地の比率	比率
新潟	3,087	80.3
群馬	1,153	75.6
山梨	6,255	73.2
長野	3,115	70.1
岐阜	993	65.1
福井	16,018	45.8



かつては耕作地が広がっていた一帯。現在は農地上は荒地になっている。群馬の山村地区